

特集

私が愛する極上空間 It's My Style

住居はその人の美的感覚から建築観・人生観まで全てが表れる。

好きな色、好きな形、好きな質感……

（この本では、私のスタイル）

こだわりの極上空間は、その人の心のなごみ

Part 1 音楽と芸術の華麗なる館〜マレーシア・ペナン島 Villa Primavera

Part 2 モチコウタムの香り立つエレガンス

Part 3 自分だけのプレミアムな住空間を飾る、彩る愉しみ

・ホテル・リゾートが結ぶ花空間

・究極のモダン空間・パトリック・ブランの「植物の境」

・現代アートで演出する空間

音楽と芸術の華麗なる館

Villa Primavera ~マレーシア ペナン島

—ペナン島—

マレー半島の西、マラッカ海峡に位置するこの島は、南国特有の海と空、他民族が織りなす多様性、

そして英国植民地時代の面影が色濃く残る、東南アジアでもとりわけ美しい島である。

その島に、地元の人から「Palace」と呼ばれる邸宅がある。

ペナン島屈指の高級住宅街の中でも一際その優美な存在感を誇り、

その館に宿されることは榮譽であるともいわれる、「Villa Primavera」

と名づけられたこの館の主人こそ、「東南アジアで最も成功した日本人」と称せられ、

マレーシア国王から「Tan Sri (タン・ヌリ)」の称号を与えられた小西忠彦氏だ。

グッと足を踏み入れれば、そこは、音楽と芸術に満ちた光輝く世界。

写真：S. P. S. / S. P. S. Pictures 写真：中野直典



森の中の館——調和のとれた完璧な風景

ベナン島は「The Pearl of The Orient (東洋の真珠)」といわれ、古くからマレーシア諸島の観光地として知られてきた。美しいビーチはもちろんだこと、英国植民地時代の名残から、東南アジアでありながらどこかヨーロッパのようなエレガントな雰囲気を持ち、それでいながら牧歌的な懐かしさをも感じさせる、独特の不思議な魅力がある。

島の中心部の程近く、大邸宅が建ち並ぶ閑静な高級住宅街にその華やかな館があった。Villa Primavera——「春の館」を意味するこの大邸宅は、約4000坪という

広大な敷地の中、どこまでも調和のとれた風景の中に建ち並ぶ。調和のとれた美で訪れる者を圧倒する。

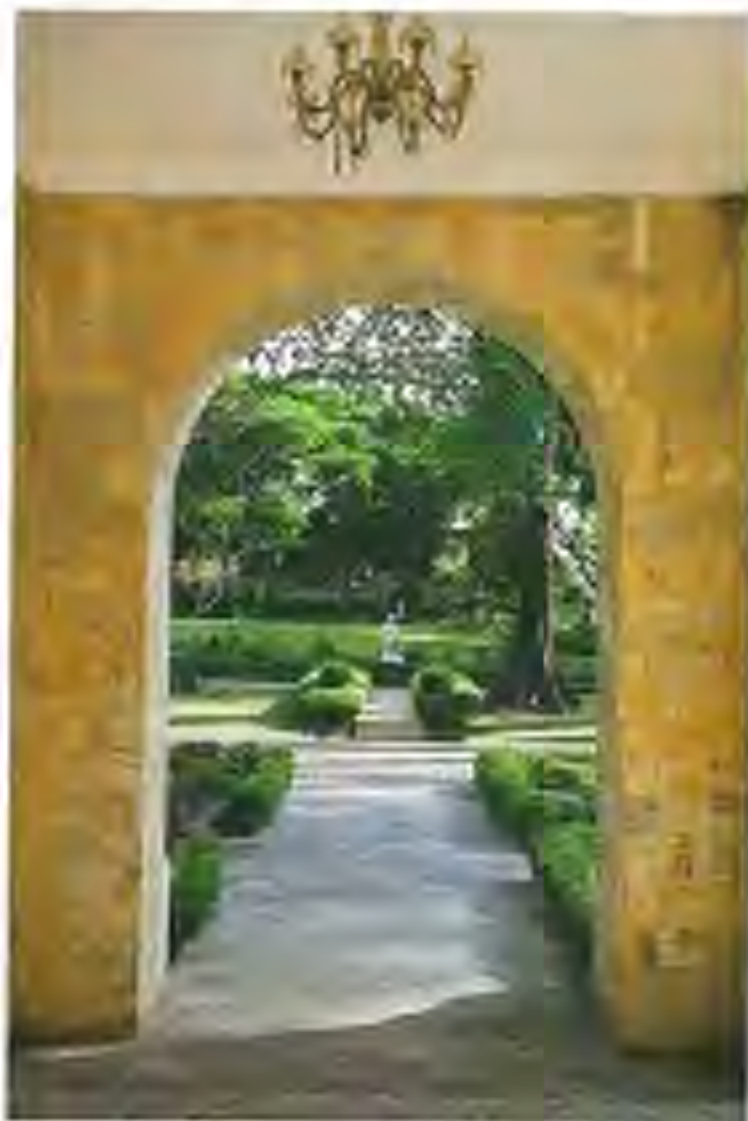
Villaの主人は日本人だ。建築家、インテリアデザイナーとして活躍し、海外で知らぬ者はいないといわれるアキラ・小西史彦氏が、構想10年、着工から2年をかけた、1995年に完成させたドリームハウスがこのVilla Primaveraなのだ。そのエクステリアからインテリアの細部に至るまで、小西氏の徹底したこだわりで、熟練した職人やアーティストによって一切の妥協なく造られている。



上/「景観目」のある庭に歩くこと、まずは手元が歩きやすい広大な敷地が広がる。この土地を購入した1993年当時からの樹木は一切伐採せず、更に大邸宅の敷地を3000坪植えて、緑豊かな敷地を造った。

右ページ/外観はレナト建築、本来造物していたイタリア建築師のデザインが、なぜか調和のとれた調和したため、後に建築も建築様式を求め小西氏自らヨーロッパに訪ねた。レナト建築でレナト建築にああ、この様式を採用したという。アレンジメントで披露していた著名なアメリカ人建築家の設計による。

左下/廊下のフランスから彫刻を運び、ランタナで彫刻の元には大理石の彫刻が完成する。右下/庭園の足元には彫刻が彫られた大理石の彫像が、様々な表情を呈する。林に隠れるカワウソウが美しい。





左ページ「プリマベラの園」の柱はカークの最高級の人差し。当初はカークのサイトとされる地元の大理石を予定していたが、小西氏が無理で大理石を運送しているうちに「完全なる白は冷たい印象で飽きてしまうのでは」と感じ、アラビヤ・ストーン（アラブ産）の大理石に変更したという。結果、温かみのある空間が完成した。



右上、天幕のフレスコ画に見事に調和するヴェネツィア・ガラスのシャンデリア。右上、カークのランプのシェードもヴェネツィア・ガラスのシェードとされている。右下、タペストリーは一つでインテリア全体の印象が変わる。部屋まで敷き詰められることで、統一感のあるコーディネートが実現する。右下、インテリアは全てイタリアン仕様。美しい、キャビネットの中には愛らしい輸入彫刻。ベトナムの産で日本をとりかえに運送する、小西夫人のこだわり。

「ナポリ」の柱はカークの最高級の人差し。この柱を運ぶのに苦労したと聞かせる「ナポリの園」。

テーマごとにコーディネートされた美しい空間

Villa Primaveraの主なパブリックスペースは、イタリアをモチーフにしたテーマを基にコーディネートされている。エントランスを入ってすぐのメインパブリックルーム「プリマベラの園」のテーマは、この館の家紋であり、小西氏がよく愛する絵画、ボッティチェリの『La Primavera(春)』である。オリジナルはもちろんフィレンツェのク

フィツィ美術館にあるが、そのイタリアの国宝の修復を手掛けた専門の職人3名に特別に依頼したのが、ここに掛けられた「春」なのだ。壁画が持つ鮮やかな色彩を軸に、シャンデリアから家具、小物に至るまで、厳選された本物が空間を彩る。小西夫妻が十数年かけて収集してきたという、どれも思い入れのある品ばかりだ。

続く「ナポリの園」は芸術的な部屋だ。夫のイタリア好きだった父の影響で、幼い頃よりイタリア、特にナポリに憧れを抱いていた小西氏にとって、ナポリは今でも特別な街。最も美しくあったといわれる18世紀頃のナポリを、部屋の全面にフレスコ画で描かせた。まさに部屋全体が芸術作品といえる、贅をこらした空間だ。



天井の装飾は、夫はイタリア人アーティストによる平面のフレスコ画。エアコンのグリッドがここを邪魔にせずするため、他の部屋に比べて天幕が低く、石膏の装飾が得意な小西氏にこだわったという。結果、全館がフレスコ画の美しい装飾に包まれた、芸術性の高い空間となった。





Card Room

左ページ/床の大理石は、フィレンツェのドゥオーモ(花の聖母寺)をモチーフに、ダークグリーン、ピンク、白、グレー、黒で統一されたデザイン

- 1 ピンクで統一された部屋は、夫人の趣味の一つであるブリッジを楽しむためのカードルーム。甘過ぎないピンクのコーディネートにはハイセンスが要求される。可憐でありながら落ち着きのある演出はさすが
- 2 部屋と調和する愛らしいシャンデリア
- 3 キャビネットの上にさりげなく置かれた夫妻の写真。インテリアのコーディネートは夫妻の希望を基にイタリアの専門家が手掛ける
- 4 少人数のゲストを招いて音楽を楽しむミュージックルーム。カーペットはマラケシュで購入
- 5 基調色はグリーン。タペストリーはベルギー、ソファはフランス製
- 6 グランドピアノはベーゼンドルファー。年に4回開かれるヴィラでのコンサートでは、このベーゼンドルファーを会場となる「ベニスの間」まで移動させる
- 7 スタンドガラスのシェードが美しいランプは、格調高いミュージックルームをさらに印象的に演出

Music Room



オペラと美食の至福の夜

Villa Primavera Concert

美しい館Villa Primaveraが一際華やか夜がある。
クラシック音楽に精通する小西史彦氏に招かれた
世界の一流アーティストたちが、
その卓越した演奏や美声をヴィラで披露するのだ。
招待されるゲストは音楽をこよなく愛する名士たち。
選ばれた者だけが享受できる、至福の饗宴。





左/ 気取ったテーブルセッティング、晚餐会の華やかさが
右/ 夕陽の空を彩るパナマリゾートの建物と、
ゲストを乗せた車がパナマリゾートに到着する

上/ アジアをメインの客層で盛り上げる小西氏
下/ アジアをメインの客層で盛り上げる小西氏
パナマリゾートでは英語、マレー語、日本語が
飛び交う。地元パナマ島の客は日本人、政治家、官
僚、新聞関係者、文化人など様々な分野の一流客が、
遠方からこのコンサートのために訪れる。共通
しているのは、音楽を愛しているということだ



上/ ソプラノのNancy Yuen氏とテナーのDominic Nani氏の温かい歌
声は「パナマの夜」に響き渡る。両氏はVilla Primaveraでのコ
ンサートに欠かせない豪華歌手で、小西氏の付き合いでもある
下/ 今年初めて登場した独逸出身のソプラノ歌手、Song Kee Chang
氏、深みのある声と素晴らしい表現力で聴衆を魅了した
右/ ソプラノのBoris Kodjovic氏、歌手の魅力と最大限に引き出す編成で
華やかなサウンドで、アリアをドラマチックに盛り上げた

演奏終了後スピーチをする小西氏。今後の公演に対する思いや歌手とのエ
ンゲージメントが語られた

オペラ・アリアが芸術の館に響き渡る

音楽を愛する小西氏が文化芸術活動の一環として
行っているのが、Villa Primaveraで盛大に催されるコン
サートと晩餐会だ。きっかけは15年前、ロシア大使館の依頼
で、ボリショイ劇場管弦楽団コンサートマスターのアレ
クサンドル・カラシコフと約70人のゲストを招いて演奏会を
行った。以来15年間、年に平均4回のペースで室内楽や
オペラを中心にコンサートを行っている。その規模とクオリ
ティは、個人宅で開かれる音楽会のレベルを遥かに超え
ている。招待客たちは皆クラシックの愛好家ばかり。この
特別なコンサートを心から楽しみにしてヴィラに集う。演奏
家たちもVilla Primaveraでのコンサートを楽しみに世界
各地からパナマ島にやってくる。ステージでの演奏とは全く
違う雰囲気の中、レベルの高い聴衆を囲むことで、
特別なボルテージが湧き上がるという。

この日のコンサートのテーマはスカラ座。パナマ島の
太陽がゆっくりと沈み始めた頃、「Teatro Alla Scala
CONCERT」と題されたオペラのアリア・コンサートが華や
かに幕を開けた。3人の歌手によって披露されたのは「カ
ルメン」「ドン・ジョバンニ」「愛の妙薬」「リブレット」「蝶々
夫人」「ファウスト」などからの有名アリア。オペラファンであら
ば誰でも馴染みのある名曲ばかりだ。

芸術の館で繰り広げられる芸術の夜。夢のような時間
を提供してくれたアーティストとこの館の主の小西氏に、精
神のない拍手がいつまでも送られた。



ワインと美食と楽しい会話に酔う

コンサートが終わると次はいよいよ晩餐会が始まる。80人ものゲストにフレンチのフルコースをふるまうため、厨房は大忙しだ。Villa Primaveraにはもちろん専属のシェフがいるが、この日は名門ホテルのシェフがフレンチシェフによる特別メニューを用意された。ワインは、小西氏の自慢のコレクションの中から彼自らがセレクトする。今回は2000年のボルドーがテーマ。シャトー・オーブリエンのセカンドがふるまわれるということで、ゲストの期待も高まる。

晩餐会は「プリマベラの園」「ナポリの園」を中心に、カードルームやミュージックルームまでその会場となる。1つのテーブルに10人前後で、どのテーブルも国際色豊かだ。同じ園になった者同士、にこやかに自己紹介をしながらささく終わったばかりの演奏について語り合っている。音楽という共通項があるので、初対面でもすぐに親しくなり、どのテーブルからも和やかな笑い声が絶えない。

小西氏がセレクトした期待を裏切らないワインと、一流レストランでしか味わえない料理とのマッチアージュに、身も心もすっかり満たされる。この夢のような幸せな時間が永遠に続いたら……。ゲストの誰もがそう思うだろう。このVilla Primaveraでの素晴らしい夜は、ゲスト一人ひとりの胸に美しく刻まれたはずだ。



言葉とワイン、芸術——
見ることの多い話題にワインもずかずか



シャトー・オーブリエン、シャトー・ド・ス
ペランのシェフによる特別料理。グルメ
で知られるゲストも多く、一歩も遅い
料理が提供された



ゲストにこの夜は最高の思い出を
送ってくださることを願っています
「Excellent!」

Tan Sri Fumihiko Konishi's

Villa Primavera Story

構想10年のドリームハウス

Villa Primaveraが完成したのは1995年です。1993年にカラモンパールの高等裁判所のオークションで、400坪のあの土地を手に入れたのですが、その10年前から構想を練っていました。1980年頃はイタリアに夢中になっていて、特にボッティチェリの「La Primavera(春)」に魅了されていました。それで漠然と、将来自分が成功して思い通りの家建てるときは、「Villa Primavera」という名前をしようと考えていたのです。イギリス人は家に名前を付ける風習があるので、それに倣っていただけです。

当時は、10年後に理想的な土地を本当に手に入れられるとは思っていませんでしたが、それでも、彫刻や建材をどこで調達するか、リサーチは常に怠りませんでした。グイフにあるほとんどが、私がイタリアで直接買い付けた物です。10年の間に随分とリサーチ目的の旅行をしました。イタリアには前古の田舎まで足を運びましたね。壁に書いてある彫像やレリーフは、アーティストに私の思い通りのものを作ってもらいました。そうやって、10年かけて少しずつ準備をしていたのです。

「La Primavera」——美の衝撃

フィレンツェのウフィツィ美術館で「La Primavera」を見たときの感動は今でも忘れることができません。初めてイタリアに行ったのは33歳で、旅の最後の方にフィレンツェに行きました。イタリアには至る所に美術館があり、私も片っ端から見学しました。しかし、ほとんどの絵画が宗教画で、テーマが皆同じなんですね。いくら美しくてもそればかりだとはいには飽きてしまいます。ウフィツィ美術館もそうでした。しかし、宗教画ばかりだと思いながら「ボッティチェリの間」に入った時、「ヴェーナスの誕生」と「La Primavera」が横並びで飾られていたのです。全く宗教色がなくその絵の素晴らしさに感動しました。当時のウフィツィ美術館はまだそんなに混んでおらず、絵の前の椅子に座って、しばし眺めていましたよ。

「La Primavera」は絵画的にいろいろと説の多い部分があって、関連書籍がたくさん出ています。さっそくミュージアムショップで読みやすい本を買って解説を読みました。そこで「La Primavera」にボッティチェリが込めた、教会による古い体制からの解放という意味、つまりこの絵がルネサンスを象徴しているということを知り、非常に感動しました。



完成したVilla Primaveraの美しい外観。この写真は、Tan Sri Fumihiko Konishiが撮影した。



